耕作放棄地から広がる地域の未来　高校生プロジェクト

東洋大学附属姫路高等学校　地域活性部　PROJECT　TOYO　畑班

1. 目的

①耕作放棄地の再生

②自然との共生

③地域資源の発掘

2. 取組内容

①耕作放棄地の利用→持続可能な農業を継承→景観環境維持

②廃棄物肥料の有効活用→農薬、化学肥料不使用→土壌・水質汚染防止

③作物で CO2 削減→生物多様性の回復→地球温暖化の緩和

④大量収穫→多角的商品化→地域の経済力を高める

⑤害獣の有効利用→肉・骨・皮の利用→地域資源の発掘、猟友会活動活発化

3. 結果

①地産地消の商品・環境問題・健康志向の高まりを意識した商品→特産品化

②SDGs フェティバル開催→コミュニティの場を拡大

③幼稚園児と収穫体験→食や環境への理解

④異業種との交流→知識の習得

⑤特産品店での販売体験→コミュニケーションの場を拡大

⑥鹿革で伝統文化をリノベーション→地域資源と地場産業をつなげる

4. 結果

休耕田を利用した有機野菜作りを実践することで、持続可能な農業に携わりたい高校生が増えた。このことを地域に提案することで、新たな農家が増えていった。野菜を収穫したり、商品開発をする過程で、地域の方々との世代間交流が生まれ地域の活性化に繋がった。

地域で捕獲された害獣である鹿を有効活用することで、地域資源としての鹿の付加価値を高めることになった。狩猟者の捕獲意欲の向上にもつながった。また鹿革商品の製作を通して姫路を研究することで高校生も伝統工芸品を知る機会を持ち文化を継承することの大切さを知ることができた。

姫路市のイベント等にも参加して高校生が、第一次産業や皮革産業、SDGsについて積極的に行動し呼びかけることで地域住民の方々と持続可能な将来を考える機会ができた。

5. 考察、まとめ

このように、第 1 次産業から第 3 次産業まで携わる中で、農業、工業文化の継承、耕作放棄地を活用する環境保全型農業の実践ができた。栽培した野菜や果物による商品開発と、地域の方々との協働作業による世代間交流は、地域活性化に繋がり話題を呼んでいる。害獣の地域資源化、加工商品の特産品化は持続可能な社会の実現に大きく寄与している。

6. 今後の発展

地域の耕作放棄地で栽培した野菜、害獣を活用した特産品を開発し、PR活動する中で、既存のものに新しい価値を生み出す力や商品開発力、情報発信力などを身につけることができこれからの農業支える人材育成につながっていく。